

# 第 1 0 章 情報

第 1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	情 - 1
第 2	各科目の評価の観点の趣旨	情 - 1
第 3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	情 - 2
	情報 A	情 - 2
	情報 B	情 - 6
	情報 C	情 - 10
第 4	単元の評価に関する事例	情 - 14
	情報 A	情 - 14
	情報 B	情 - 19
	情報 C	情 - 23

## 第 1 0 章 情報

### 第 1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

#### 1 教科目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して，情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに，社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ，情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

#### 2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報や情報社会に関心を持ち，身のまわりの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し，情報社会に主体的に対応しようとする。	情報活用の方法を工夫したり，改善したりするとともに，情報モラルを踏まえた適切な判断をする。	情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに，情報を目的に応じて表現する。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに，現代社会における情報の意義や役割を理解している。

### 第 2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報 A	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち，身のまわりの問題解決を通して情報を進んで活用しようとするとともに，情報社会に主体的に対応しようとする。	情報を収集・処理・発信する方法を工夫したり，結果を踏まえて改善したりするとともに，情報モラルを踏まえた適切な判断をする。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するための基礎的な技能を習得し，目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するためにコンピュータなどを活用する。	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を身に付けるとともに，情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。
情報 B	コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組みに関心を持ち，問題解決においてコンピュータを効果的に活用しようとするとともに，情報社会に主体的に対応しようとする。	問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための方法を工夫したり，結果を踏まえて改善したりするとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を踏まえた適切な判断をする。	問題解決においてコンピュータを活用するための技能を身に付けるとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を理解し，問題解決においてコンピュータを効果的に活用する。	コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組みを理解し，問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を身に付けるとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を理解している。
情報 C	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性に関心を持ち，表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを進んで活用しようとするとともに，情報社会に主体的に対応しようとする。	表現やコミュニケーションの目的に応じて方法を工夫したり，結果を踏まえて改善したりするとともに，情報の収集・発信に伴う問題などを踏まえた適切な判断をする。	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を生かして，表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する。	表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用するための基礎的な知識を身に付けるとともに，情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解している。

### 第3 必修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

#### 情報A

##### 1 目標

コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。

##### 2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心をもち、身のまわりの問題解決を通して情報を進んで活用しようとするとともに、情報社会に主体的に対応しようとする。	情報を収集・処理・発信する方法を工夫したり、結果を踏まえて改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をする。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するための基礎的な技能を習得し、目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するためにコンピュータなどを活用する。	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を身に付けるとともに、情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。

##### 3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

情報Aにおいては、学習指導要領の内容の(1)や(2)などの大項目を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を設定した。

##### (1) 「(1) 情報を活用するための工夫と情報機器」

###### 【学習指導要領の内容】

###### ア 問題解決の工夫

問題解決を効果的に行うためには、目的に応じた解決手順の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。

###### イ 情報伝達の工夫

情報を的確に伝達するためには、伝達内容に適した提示方法の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。

###### 【「(1) 情報を活用するための工夫と情報機器」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することに関心をもち、問題解決と情報伝達の活動を目的に応じて適切に行おうとする。	問題解決と情報伝達の活動において、目的に応じた解決手順や提示方法を自分なりに工夫する。	問題解決と情報伝達の活動において、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する。	問題解決と情報伝達の活動において、目的に応じて解決手順や提示方法を工夫する必要があることと、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解している。

###### 【「(1) 情報を活用するための工夫と情報機器」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り組んだ課題を自分にとって身近な問題として捉え、関心をもち問題解決に取り組もうとする。</li> <li>問題の解決手順と情報機器の選択をいろいろと考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の手順と情報機器の選択を自分なりに工夫する。</li> <li>問題解決の結果を評価し、用いた方法と結果との関係を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりにある簡単な問題の解決を行う。</li> <li>問題解決のためにコンピュータや情報通信ネットワークなどを用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決には様々な方法があり、その方法によっては結果や効率が異なることを体験的に理解している。</li> <li>問題解決において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解</li> </ul>

				している。
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を伝達する相手に分かりやすく伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達する情報に応じた提示方法を考える。</li> <li>・情報伝達の結果を評価し、用いた方法と結果との関係を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を伝達する相手に分かりやすく伝えるための活動を行う。</li> <li>・情報伝達のためにコンピュータや情報通信ネットワークなどを用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達する情報にはそれに適した提示方法があることを体験的に理解している。</li> <li>・情報伝達においてコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解している。</li> </ul>

(2) 「(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用」

【学習指導要領の内容】

ア 情報の検索と収集

情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得させる。

イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方

情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。

ウ 情報の収集・発信における問題点

情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題及びそれを解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。

【「(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報通信ネットワークやデータベースなどの活用に関心をもち、実習課題の解決を通して情報を効果的に収集・発信しようとするとともに、情報の収集・発信における問題に対処しようとする。	情報通信ネットワークやデータベースなどを活用して情報を収集・発信する方法を工夫するとともに、情報の信憑性やプライバシーへの配慮などを考える。	情報通信ネットワークやデータベースなどを活用して情報を効率的に検索・収集し、効果的に発信・共有する。	情報を効率的に検索・収集する方法、情報を発信・共有するための工夫や取決め、情報の収集・発信における問題点と対処法を理解している。

【「(2) 情報の収集・発信と情報機器の活用」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークやデータベースなどを用いて必要な情報を収集しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集の目的に応じた検索システムの選択や検索条件の工夫を考える。</li> <li>・情報検索の結果を評価し、情報収集の方法により結果が異なることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークやデータベースなどを用いて必要とする情報を検索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を探す手順や方法によって得られる結果や作業の効率が異なることを体験的に理解している。</li> <li>・よりよく情報収集するには情報を利用する側と提供する側とともに工夫が必要であることを具体的に理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を発信・共有するための工夫や取決めに関心をもつ。</li> <li>・情報通信ネットワー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じた情報の発信・共有のために、情報の表し方の工夫や取決めを考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を相手に適切に伝えるために、情報通信ネットワークなどを用いて情報の発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を発信するために必要な情報の表し方の工夫や取決めを具体的に理解してい</li> </ul>

	クなどを用いて情報を相手に適切に伝えようとする。	る。 ・情報発信の結果を評価し、改善を考える。	信・共有を行う。	る。 ・情報を共有するために必要な情報の表し方の工夫や取決めを具体的に理解している。
ウ	・情報の収集・発信における具体的な問題に関心をもち、その対処法を調べたり考えたりしようとする。	・情報の収集・発信において著作権やプライバシーなどについて配慮する。 ・情報の収集・発信における規則がなぜ必要なのかを考える。	・情報通信ネットワークなどを用いて情報の収集・発信を行う。	・情報の収集・発信の際に起こりうる具体的な問題とその対処法を理解している。

(3) 「(3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用」

【学習指導要領の内容】

ア コンピュータによる情報の統合

コンピュータの機能とソフトウェアとを組み合わせることを通して、コンピュータは多様な形態の情報を統合できることを理解させる。

イ 情報の統合的な処理

収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。

【「(3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
多様な形態の情報が統合できることに関心をもち、情報を統合的に扱うためにコンピュータの機能、周辺機器、ソフトウェアを組み合わせ活用しようとする。	収集する情報に応じた周辺機器やソフトウェアを適切に選択し、目的に応じて情報を統合するためにソフトウェアの使い分けや組み合わせを考える。	周辺機器やソフトウェアを用いて情報を収集し、収集した情報を目的に応じて統合的に処理する。	コンピュータの機能、周辺機器、ソフトウェアを組み合わせることによって多様な形態の情報が統合でき、目的に応じて処理し活用できることを理解している。

【「(3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	・コンピュータの機能、周辺機器、ソフトウェアを組み合わせ情報デジタル化しようとする。	・情報の形態に応じた周辺機器とソフトウェアの組み合わせを考える。	・周辺機器やソフトウェアを用いて情報をデジタル化してコンピュータに取り込んだり表示したりする。	・形態の違う情報でもコンピュータでは統合的に扱えることを体験的に理解している。 ・代表的な周辺機器の種類とその用途を理解している。
イ	・多様な形態の情報を目的に応じて統合しようとする。 ・著作権やプライバシーを尊重しようとする。	・目的と作業の効率を考えて制作計画を立てる。 ・制作物を評価し、改善を考える。 ・制作活動において著作権やプライバシーなどについて配慮する。	・情報を統合するために目的に応じてソフトウェアを使い分けたり組み合わせたりする。 ・多様な形態の情報を統合した制作を行う。	・代表的なソフトウェアの種類とその用途を理解している。 ・制作物を評価し改善するための基本的な方法を理解している。

(4) 「(4) 情報機器の発達と生活の変化」

【学習指導要領の内容】

- ア 情報機器の発達とその仕組み  
情報機器の発達の歴史に沿って、情報機器の仕組みと特性を理解させる。
- イ 情報化の進展が生活に及ぼす影響  
情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。
- ウ 情報社会への参加と情報技術の活用  
個人が情報社会に参加する上でコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であること及び将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解させる。

【「(4) 情報機器の発達と生活の変化」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報機器の発達とその仕組みや情報化の進展が生活に及ぼす影響に関心をもち、情報や情報技術を生活に役立て主体的に活用しようとする。	情報機器の発達の歴史と関連させて情報化の進展が生活に及ぼす影響について考えるとともに、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考える。	情報機器の発達と生活の変化とのかかわりや、将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことの必要性について、情報通信ネットワークなどを活用して情報を収集し、その結果や検討内容を表現する。	情報機器の発達とその仕組みを理解するとともに、情報化の進展が生活に及ぼす影響や将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことの必要性を理解している。

【「(4) 情報機器の発達と生活の変化」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	・情報機器の発達とその仕組みについて関心をもち。	・いろいろな情報機器についての情報を基に情報機器の発達について考える。	・情報通信ネットワークなどを用いて情報機器の発達の歴史を調べる。	・情報機器の歴史的な変遷を具体的に理解している。 ・コンピュータと情報通信ネットワークの仕組みの概要を簡単に理解している。 ・アナログとデジタルの違いを簡単に理解している。
イ	・情報化の進展が生活に及ぼす影響に関心をもち、具体的に調べようとする。 ・情報を生活に役立て主体的に活用しようとする。	・身のまわりの事例などを基に情報化の進展が生活に及ぼす影響について考える。 ・情報の信頼性や信憑性、著作権の尊重について考える。	・情報化の進展が生活に及ぼす影響について、情報通信ネットワークなどを用いて調べたり、討議したりする。	・情報化の進展が生活に及ぼす影響を具体的に理解している。 ・日常生活において直面する情報に関する問題について理解するとともに、具体的な対処法を身に付けている。
ウ	・情報社会に関心をもち、将来にわたり情報技術の活用能力を高めようとする意欲をもち。	・個人が情報社会に参加する上で必要なことについて考える。	・今まで学習したことを基に個人が情報社会に参加する上で必要なことについて調べる。	・個人が情報社会に参加する上で、コンピュータや情報通信ネットワークなどを使いこなす能力が重要であることを理解している。 ・将来にわたり情報技術の活用能力を高めていくことの必要性を理解している。

情報B

1 目標

コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組み，情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させ，問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得させる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組みに関心をもち，問題解決においてコンピュータを効果的に活用しようとするとともに，情報社会に主体的に対応しようとする。	問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための方法を工夫したり，結果を踏まえて改善したりするとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を踏まえた適切な判断をする。	問題解決においてコンピュータを活用するための技能を身に付けるとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を理解し，問題解決においてコンピュータを効果的に活用する。	コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組みを理解し，問題解決においてコンピュータを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を身に付けるとともに，情報技術が社会に及ぼす影響を理解している。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

情報Bにおいては，学習指導要領の内容の(1)や(2)などの大項目を内容のまとめりとして，これらごとに評価規準を設定した。

(1) 「(1) 問題解決とコンピュータの活用」

【学習指導要領の内容】

ア 問題解決における手順とコンピュータの活用

問題解決においては，解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えること及びコンピュータの適切な活用が有効であることを理解させる。

イ コンピュータによる情報処理の特徴

コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。

【「(1) 問題解決とコンピュータの活用」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることに関心をもち，問題解決において適切にコンピュータを活用しようとする。	問題解決の手順を工夫するとともに，用いる手段を考える。	問題解決の手順を明確に記述して実行するとともに，問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることを確かめることができる。	問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることと，コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の特徴を理解している。

【「(1) 問題解決とコンピュータの活用」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの問題をよりよく解決することに関心をもち，問題解決に取り組もうとする。</li> <li>問題解決の手順と用いる手段を考えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の手順を工夫する。</li> <li>問題解決に用いる手段を考える。</li> <li>問題解決の結果を評価し，より効果的な解決法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の手順を記述する。</li> <li>コンピュータやその他の手段を用いて問題解決を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることを理解している。</li> <li>問題解決においてコンピュータの適切な活用が有効であることを理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを適切に活用するために，</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間とコンピュータの情報処理の違いに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間とコンピュータの情報処理を対比さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータによる情報処理の長所と短</li> </ul>

コンピュータによる情報処理の特徴を知ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ついて考える。</li> <li>コンピュータによる情報処理の長所と短所を考える。</li> </ul>	せる体験的な活動を行う。	所を体験的に理解している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重視する観点や処理の条件が違えばコンピュータの使い方も違ってくことを理解している。</li> </ul>
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 「(2) コンピュータの仕組みと働き」

【学習指導要領の内容】

ア コンピュータにおける情報の表し方

文字、数値、画像、音などの情報をコンピュータ上で表す方法についての基本的な考え方及び情報のデジタル化の特性を理解させる。

イ コンピュータにおける情報の処理

コンピュータの仕組み、コンピュータ内部での基本的な処理の仕組み及び簡単なアルゴリズムを理解させる。

ウ 情報の表し方と処理手順の工夫の必要性

コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。

【「(2) コンピュータの仕組みと働き」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
コンピュータの仕組みと働きに関心を持ち、情報の表し方と処理手順を工夫して課題を解決しようとする。	コンピュータを用いた課題解決において、課題の目的や条件に応じて情報の表し方と処理手順を工夫する。	コンピュータの仕組みと働きを踏まえて、コンピュータを用いた課題解決を行う。	コンピュータにおける情報の表し方と処理の仕組みについて基本的な考え方を理解するとともに、情報の表し方と処理手順の工夫の必要性を理解している。

【「(2) コンピュータの仕組みと働き」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字、数値、画像、音などのコンピュータ上の表し方について関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体例や図を基にして情報のデジタル化について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報のデジタル化について理解を深めるための簡単な実験などを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字、数値、画像、音などのコンピュータ上の表し方について基本的な考え方を理解している。</li> <li>情報のデジタル化の長所と短所について具体的に理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの仕組みについて関心をもつ。</li> <li>アルゴリズムの考え方に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの各機能の役割を考える。</li> <li>簡単なアルゴリズムを具体例に当てはめることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータによる情報の処理を理解するためにシミュレーションなどの活動を行う。</li> <li>簡単なアルゴリズムを理解するための活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの各機能がなぜ必要なかを理解している。</li> <li>コンピュータによる情報の処理において処理手順の明確な記述が必要であることを理解している。</li> </ul>
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の表し方と処理手順を工夫しようとする。</li> <li>コンピュータを用いて課題解決に取り組もうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決において情報の表し方と処理手順を工夫する。</li> <li>課題解決の結果を自己評価や相互評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の表し方と処理手順を工夫してコンピュータを用いた課題解決を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータを用いた課題解決において情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解している。</li> </ul>

(3) 「(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決」

【学習指導要領の内容】

ア モデル化とシミュレーション

身のまわりの現象や社会現象などを通して、モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。

イ 情報の蓄積・管理とデータベースの活用

情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、簡単なデータベースを設計し、活用できるようにする。

【「(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
モデル化とシミュレーション及びデータベースの活用に関心をもち、それらの方法を適用して身のまわりの問題を解決しようとする。	問題をモデル化する方法を工夫し、シミュレーション結果に基づいてモデル化が適切かどうかを考える。また、データベースの利用目的に応じて必要な機能を考えて設計を工夫する。	身のまわりの問題を実際にモデル化しシミュレーションを行うとともに、簡単なデータベースを設計し活用する。	モデル化とシミュレーションの考え方や方法、データベースの概念について理解するとともに、問題解決において活用するための基礎的な知識を身に付けている。

【「(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル化とシミュレーションの考え方や方法に関心をもつ。</li> <li>身のまわりの問題の解決においてモデル化とシミュレーションの方法を適用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの問題の簡単なモデル化を考える。</li> <li>シミュレーション結果を評価し、モデル化が適切かどうかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル化とシミュレーションの考え方や方法を用いて身のまわりの問題を解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル化とシミュレーションの基本的な考え方や方法を理解している。</li> <li>モデル化の仕方が異なるとシミュレーション結果が異なることを具体的に理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念に関心をもつ。</li> <li>情報の蓄積・管理のためにデータベースを活用しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の蓄積・管理の目的に応じてデータベースの設計を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なデータベースを設計し活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を具体的に理解している。</li> <li>データベースを設計するときには様々な設計上の観点があることを理解している。</li> </ul>

(4) 「(4) 情報社会を支える情報技術」

【学習指導要領の内容】

ア 情報通信と計測・制御の技術

情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解させる。

イ 情報技術における人間への配慮

情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解させる。

ウ 情報技術の進展が社会に及ぼす影響

情報技術の進展が社会に及ぼす影響を認識させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えについて考えさせる。

【「(4) 情報社会を支える情報技術」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報社会を支える情報技術とそれを導入する際の配慮事項について関心をもち、情報技術を社会の発展に役立てようとする。	情報通信と計測・制御の技術の社会における活用について考えるとともに、情報技術について人間への配慮や社会に及ぼす影響を考える。	情報社会や情報技術について、情報通信ネットワークなどを活用して情報を収集し、その結果や検討内容を表現する。	情報通信と計測・制御の仕組みを理解するとともに、情報技術における人間への配慮や情報技術の進展が社会に及ぼす影響を理解している。

【「(4) 情報社会を支える情報技術」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で利用されている情報通信と計測・制御の技術に関心をもつ。</li> <li>情報通信と計測・制御の仕組みに関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で利用されている情報通信と計測・制御の技術の長所と問題点について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信と計測・制御の仕組みを理解するために簡単な例で動作を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会で利用されている情報通信と計測・制御の技術の長所と問題点について具体的に理解している。</li> <li>情報通信と計測・制御の仕組みを具体的に理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術を導入する際の安全性や使いやすさを高めるための配慮に関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術を利用する際に必要な安全性を確保するための対策について考える。</li> <li>情報技術を使いやすくするためには多様な観点があることを具体的に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使いやすさを高めるための配慮について具体的なソフトウェアなどを基にして確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術を導入する際の安全性や使いやすさを高めるための配慮の必要性を理解している。</li> </ul>
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の進展が社会に及ぼす影響について関心をもち、具体的に調べようとする。</li> <li>情報技術を社会の発展に役立てようとする意欲をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の進展が社会に及ぼす影響について考える。</li> <li>情報技術と社会との望ましい在り方について考える。</li> <li>情報の信頼性や信憑性、著作権の尊重について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の進展が社会に及ぼす影響について、情報通信ネットワークなどを活用して情報を収集し、その結果や検討内容を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術と社会との望ましい在り方について多様な考え方があることを理解している。</li> </ul>

情報C

1 目標

情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性に関心をもち、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを進んで活用しようとするとともに、情報社会に主体的に対応しようとする。	表現やコミュニケーションの目的に応じて方法を工夫したり、結果を踏まえて改善するとともに、情報の収集・発信に伴う問題などを踏まえた適切な判断をする。	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を生かして、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する。	表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用するための基礎的な知識を身に付けるとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

情報Cにおいては、学習指導要領の内容の(1)や(2)などの大項目を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を設定した。

(1)「(1)情報のデジタル化」

【学習指導要領の内容】

ア 情報のデジタル化の仕組み

コンピュータなどにおける、文字、数値、画像、音などの情報のデジタル化の仕組みを理解させる。

イ 情報機器の種類と特性

身のまわりで見られる情報機器について、その機能と役割を理解させるとともに、デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを理解させる。

ウ 情報機器を活用した表現方法

情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容を分かりやすく表現する方法を習得させる。

【「(1)情報のデジタル化」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報機器を活用して多様な形態の情報を統合しようとするとともに、分かりやすく表現しようとする。	情報機器の種類と特性を踏まえて目的に応じた適切な情報機器を選択するとともに、情報を分かりやすく表現するための工夫をする。	身のまわりの情報機器を活用して多様な形態の情報をデジタル化するとともに、それらの情報を統合して分かりやすく表現する。	情報のデジタル化の仕組み、情報機器の種類と特性、デジタル化により多様な情報が統合化できることを理解している。

【「(1)情報のデジタル化」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	・情報のデジタル化に関心をもち、デジタル化の仕組みを知ろうとする。	・実験や図を用いた説明をもとに情報のデジタル化の仕組みについて考える。	・情報機器を用いて情報のデジタル化の仕組みを理解するための簡単な実験などを行う。	・多様な形態の情報のデジタル化について基本的な仕組みを理解している。 ・情報の単位としてのビット、バイトを理解している。

イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの情報機器に関心を持ち、その機能と役割を知ろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの情報機器についてその機能と役割を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器を用いて多様な形態の情報をデジタル化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを体験的に理解している。</li> <li>情報機器のカタログなどを読むために必要な基礎的な知識を身に付けている。</li> </ul>
ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器を活用して伝えたい内容を分かりやすく表現しようとする。</li> <li>自己や他者の制作物を適正に評価し改善しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい内容を分かりやすく表現するための工夫をする。</li> <li>制作物を自己評価や相互評価し、改善を考える。</li> <li>個人情報の取扱いや著作権などについて配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な形態の情報を統合することにより、自分の意図した内容を表現する。</li> <li>制作の計画を立て、それに基づいた活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器やソフトウェアによる表現方法の特徴について体験的に理解している。</li> <li>制作物を評価し改善するための基本的な方法を理解している。</li> </ul>

(2) 「(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション」

【学習指導要領の内容】

ア 情報通信ネットワークの仕組み

情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解させる。

イ 情報通信の効率的な方法

情報伝達の手数や容量を表す単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。

ウ コミュニケーションにおける情報通信ネットワークの活用

電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて、コミュニケーションの目的に応じた効果的な活用方法を習得させる。

【「(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報通信ネットワークの仕組みや情報通信の効率的な方法に関心を持ち、情報通信ネットワークを活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする。	目的に応じた効果的なコミュニケーションを行うために情報通信ネットワークの活用方法を考え、とともに、情報通信の効率向上やセキュリティ確保のための工夫をする。	コミュニケーションの目的に応じて、電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアを効果的に活用する。	情報通信ネットワークの仕組みと関連付けて、セキュリティを確保するための方法や情報通信の効率的な方法を理解している。

【「(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークの仕組みに関心をもつ。</li> <li>情報通信ネットワークにおけるセキュリティに関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信の取決めであるプロトコルの必要性を考える。</li> <li>情報通信ネットワークの利用においてセキュリティを確保するための工夫を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークの仕組みの説明で取りあげた具体例のうちで簡単なものを実験などで確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークについて基本的な仕組みを理解している。</li> <li>情報通信ネットワークにおけるセキュリティ確保の重要性を理解している。</li> </ul>
イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークにおける情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信の効率的な方法には一長一短が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報伝達に要する時間のおおまかな見積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報伝達の手数や容量を表す単位を</li> </ul>

	を速く正確に伝達するための様々な工夫について関心をもつ。	あることを考える。	もりをする。 ・情報通信の効率的な方法について簡単な実験などで確かめる。	理解している ・情報通信の効率的な方法について基本的な考え方を理解している。
ウ	・情報通信ネットワーク上のソフトウェアをコミュニケーションに効果的に活用しようとする。	・コミュニケーションの目的や状況に応じて情報通信ネットワークの活用方法を工夫する。 ・コミュニケーションにおけるモラルやマナーについて配慮する。	・コミュニケーションの目的や状況に応じて情報通信ネットワーク上のソフトウェアを使う。	・電子メールや電子会議などによるコミュニケーションの特性を理解している。 ・コミュニケーションにおけるモラルやマナーとその必要性を理解している。

(3) 「(3) 情報の収集・発信と個人の責任」

【学習指導要領の内容】

ア 情報の公開・保護と個人の責任

多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。

イ 情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信

身のまわりの現象や社会現象などについて、情報通信ネットワークを活用して調査し、情報を適切に収集・分析・発信する方法を習得させる。

【「(3) 情報の収集・発信と個人の責任」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
情報の公開・保護と個人の責任について関心をもち、情報通信ネットワークを活用して情報を収集・分析・発信しようとする。	情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について考えとともに、それらを踏まえて情報を収集・発信する活動において適切な判断をする。	身のまわりの現象や社会現象などについて、情報通信ネットワークを活用して、情報を適切に収集・分析・発信する。	情報の公開・保護と個人の責任について理解するとともに、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・分析・発信の方法を理解している。

【「(3) 情報の収集・発信と個人の責任」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	・情報の公開の実態や情報の保護の必要性について関心をもち、事例を調べようとする。 ・情報に関する個人の責任を自分の問題として捉えようとする。	・日常的な題材を基に情報の保護の必要性や情報に関する個人の責任について考える。 ・情報の収集・発信に伴って発生する問題について具体的な対処法を考える。	・情報通信ネットワークや新聞などを用いて情報の収集・発信に伴って発生する問題について調べる。	・情報の公開・保護について具体的に理解している。 ・情報に関する個人の責任について具体的に理解している。
イ	・身のまわりの現象や社会現象などについて、情報通信ネットワークを活用して調査することに関心をもつ。 ・課題解決において主体的に解決しようとする。	・情報の収集・発信の活動に必要なソフトウェアを選択する。 ・収集した情報を自分の考えにより整理し分析する。 ・課題解決の結果を自己評価や相互評価し、改善を考える。	・課題解決を通じて、情報の収集・分析・発信などの一連の活動を行う。 ・課題解決を通じて、コンピュータや情報通信ネットワークを統合的に活用する。	・課題解決の一連の手順について理解している。 ・情報発信における受け手への配慮や正しく伝えるための工夫の必要性を理解している。

(4) 「(4) 情報化の進展と社会への影響」

【学習指導要領の内容】

ア 社会で利用されている情報システム

社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。

イ 情報化が社会に及ぼす影響

情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。

【「(4) 情報化の進展と社会への影響」の評価規準】

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
社会で利用されている情報システムや情報化が社会に及ぼす影響について関心を持ち、望ましい情報社会の在り方を考えようとする。	社会で利用されている情報システムや情報化が社会に及ぼす影響について考える。	情報化が社会に及ぼす影響について、情報通信ネットワークなどを活用して情報を収集し、その結果や検討内容を表現する。	社会で利用されている代表的な情報システムの種類と特性、信頼性を高める工夫などを理解するとともに、情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から理解している。

【「(4) 情報化の進展と社会への影響」の評価規準の具体例】

内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア	・社会で利用されている情報システムに関心を持ち、種類と特性を知ろうとする。	・情報システムが社会に及ぼす影響について考える。	・社会で利用されている情報システムの代表的な例を調べて、その種類と特性や信頼性を高める工夫についてまとめる。	・社会で利用されている代表的な情報システムの種類と特性や信頼性を高めるための工夫について理解している。
イ	・情報化が社会に及ぼす影響について関心を持ち、情報通信ネットワークや新聞などを活用して調べようとする。 ・情報社会に進んで参加しようとする意欲をもつ。	・情報化が社会に及ぼす影響について考える。 ・情報化の「影」の部分を克服するための心構えや工夫について考える。 ・情報の信頼性や信憑性、著作権の尊重について考える。	・情報化が社会に及ぼす影響について、情報通信ネットワークや新聞などを活用して情報を収集し、その結果や検討内容を表現する。	・情報化が社会に及ぼす影響を理解している。 ・情報の信頼性や信憑性を確認する方法を理解している。

#### 第4 単元の評価に関する事例

##### 情報A

ここでは、情報を活用するための工夫と情報機器にかかわる学習領域のうち情報伝達の工夫を取りあげ、その中の学習のまとめりである「Webページの作成」について指導と評価の工夫を行った事例について紹介する。

単元名 (1)情報を活用するための工夫と情報機器 イ・情報伝達の工夫「Webページの作成」  
(4時間)

##### 1 単元の目標

- (1) WWWの仕組みに関心をもち、Webページの作成に取り組もうとする。
- (2) WWWにおけるWebページの表現の工夫を考えることができる。
- (3) 文字や画像を統合し、多様な表現方法を組み合わせたWebページを作成できる。
- (4) WWWで情報が表現豊かに発信できることを理解するとともに、基本的なHTMLのタグの名前やそのはたらきなどを理解する。

##### 2 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することに関心をもち、問題解決と情報伝達の活動を目的に応じて適切に行おうとする。	問題解決と情報伝達の活動において、目的に応じた解決手順や提示方法を自分なりに工夫する。	問題解決と情報伝達の活動において、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する。	問題解決と情報伝達の活動において、目的に応じて解決手順や提示方法を工夫する必要があることと、コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解している。
単元の評価規準	伝達する相手に情報を分かりやすく伝えるために、Webページに関心をもち、Webページを構成するタグの名前やそのはたらきなどについて探究する姿勢をもち。	伝達したい多様な形態の情報をHTMLを利用して統合し、効果的に伝える方法を考える。また、発信の際の留意点を考慮することができる。	HTMLの基本的なタグを用いて、Webページを作成できる。	WWWの仕組みと基本的なタグの名前やそのはたらきなどを理解している。
学習活動における具体的評価規準	Webページを構成するHTMLについて関心をもつ。基本的なタグの名前やそのはたらきなどについて知ろうとする。課題を仕あげ、改善しようとする姿勢が見られる。	Webページを作成するために必要なタグを選択することができる。どのような点に注意すればよいかを考えたしながら情報を発信している。	Webページを表示し、HTMLのソースを表示できる。HTMLのタグを書式に従って入力できる。タグの属性を変えて、表現したいWebページを作成できる。	HTML形式で記述されたテキストファイルによってWebページが表示されることを理解している。インターネット上でWebページが閲覧できる仕組みを理解している。Webページを構成する基本的なタグの名前やそのはたらきなどを理解している。

### 3 指導と評価の計画

時 限	学習活動	評価規準との 関連				評価の方法
		ア	イ	ウ	エ	
1	WebページとHTMLの表示 インターネット上のWebページを表示してHTMLを参照し、気が付いたことを実習記録にまとめる。					行動観察 行動観察 実習記録
2	HTMLの構造の理解 Webページにどのようなタグが使われているかを調べワークシートにまとめる。					行動観察，ワークシート 実習記録
3	足りないタグを入力する 課題のWebページで図や音声を統合して表示したり，表現を工夫として表を作成する。					行動観察 課題Webページ
4	タグの属性を変化させて「コンピュータ教室紹介」Webページを作成する 背景，文字の色や大きさ，図やリンク，表を設定してWebページを作成する。情報を発信するにあたり注意しなければならない点について配慮する。					行動観察 行動観察 作成したWebページ 作成したWebページ

(注) 「指導と評価の計画」中の「評価規準との関連」のア～エは、「2 単元の評価規準」の「評価の観点」の記号と、数字の番号は「学習活動における具体的評価規準」の番号と一致している。

### 4 評価の進め方

学習活動における具体的評価規準に照らし、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される具体例と、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてを次にまとめた。

学習活動における 具体的評価規準		評価	
		「十分満足できると判断される」状況 (A)と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況 (C)と評価される生徒への指導の手だて
1時限目	ア	閲覧ソフトによってWebページのソースを表示させ、HTMLに関心をもち、自発的にその特徴を複数見いだしている。	閲覧ソフトの使い方、HTMLの表示方法の操作のポイントを整理させ、HTMLに関心をもちさせる。
	ウ	閲覧ソフトの様々な機能を自主的に活用し、必要とするWebページのHTMLのソースを速やかに表示している。	閲覧ソフトの操作、HTMLソースの表示方法のポイントを整理させる。
	エ	HTML形式で記述されたテキストファイルから様々な情報を自主的に読み取り、このことと関連付けながらWebページが表示される仕組みを具体的に実習記録に記入している。	HTML形式で記述されたテキストファイルから読み取れる情報のうち、いくつかを例示し実習記録にまとめさせる。
2時限目	ア	Webページに記述されているすべてのタグを自発的に拾い出し、その名前をワークシートに分かりやすくまとめている。	タグがどのようなものか気付かせ、そのはたらきを考えさせる。
	エ	HTMLのタグのはたらきと閲覧ソフト	HTMLとWebページを比較し、タグ

		のはたらきとを相互に関連付けて理解し、このことを踏まえてWebページが表示される仕組みについて簡潔・明瞭に実習記録に記入している。	と閲覧ソフトとの関係に気付かせる。
3 時限目	イ	分かりやすいWebページを作成するために、課題の内容を十分に吟味し、その結果を踏まえて必要なタグを自発的に選択している。	タグの特徴について整理させ、該当するタグを考えさせる。
	ウ	すべての課題ファイルのHTMLのタグを誤りなく入力でき、それが的確であったか閲覧ソフトを活用して表示し、確認している。	入力間違いの事例を示し、なぜそのような入力間違いを生じたのか考えさせ、的確に入力できるようにする。
4 時限目	ア	多様な形態の情報を用いて分かりやすいWebページを作成するため、学習した以外のタグを自ら調べ、活用している。	タグの働きについて整理させ、課題追究の意欲を育てる。
	イ	Webページを見る側の立場に立って、分かりやすいWebページを作成するために、文字や図の配置、大きさなどについて独自に工夫している。	分かりやすいWebページのポイントを整理させるとともに、完成イメージを紙に書かせる。
	ウ	学習した以外のタグのはたらきを自ら調べ、それらを活用することによって分かりやすいWebページを作成している。	タグの働きについて整理させ、課題追究の意欲を育てる。
	エ	Webページを構成するタグの種類やはたらきを理解し、表現方法に応じてどのタグを使ったらよいかを十分に理解している。	タグの一覧表、入力の規則を確かめさせ、タグの名前とはたらきを確認させる。

## 5 観点別評価の総括

教師が生徒に対して、授業の場面でさまざまな働きかけを行うのは、生徒一人一人の学力を向上させることを目指しているからである。そのためには、学習活動における具体の評価規準の観点別評価を評定に結びつけるばかりではなく、生徒の学習活動の改善や、教師自身の指導の改善につなげていくことが重要である。

本事例では、学習活動における具体の評価規準に照らして「十分満足できると判断される」状況（A）、「おおむね満足できると判断される」状況（B）、「努力を要すると判断される」状況（C）の3段階で評価を行うが、それを総括するに当たっては学習の導入段階の評価規準の評価よりも定着段階の評価規準の評価に重みを置いた。具体的には、次のような重み付けを行った。

学習活動における具体の評価規準	重み付け
ア : ア : ア	1 : 1 : 2
イ : イ	1 : 2
ウ : ウ : ウ	1 : 1 : 2
エ : エ : エ	1 : 1 : 2

学習活動における具体の評価規準の評価の結果に対して、あらかじめ次のように評価の総括について考え方を定めた。なお、同一の観点にかかわる具体の評価規準の評価結果に、Aが1個とCが1個ある場合にはBが2個あるものと見なして評価の総括を行った。

**【評価の総括の考え方】**

観点別評価の結果がAとBのみでAが半数以上の場合はAとし、その他はBとする  
 観点別評価の結果がBとCのみでBが半数以上の場合はBとし、その他はCとする  
 観点別評価の結果がAのみの場合はAとする  
 観点別評価の結果がBのみの場合はBとする  
 観点別評価の結果がCのみの場合はCとする

ある生徒（F）の評価結果が、ア がB，ア がB，ア がAであったとすると、上記の重み付けに応じて各評価規準の評価を換算するとア がB，ア がB，ア が2Aとなる。その結果，Aが2個，Bが2個となる（下表参照）。

評価の総括の考え方に従い，生徒（F）の「ア 関心・意欲・態度」の観点の評価はAとなる。

他の観点についても同様に評価した結果，本事例における生徒（F）の観点別評価の総括はつぎの表の通りとなった。

〔観点別評価の総括例〕

生徒 F	関心・意欲・態度			思考・判断			技能・表現				知識・理解		
	ア :ア :ア = 1 : 1 : 2			イ :イ = 1 : 2			ウ :ウ :ウ = 1 : 1 : 2				エ :エ :エ = 1 : 1 : 2		
	評価規準	評価	換算	評価規準	評価	換算	評価規準	評価	見なしによる置換え	換算	評価規準	評価	換算
		B B A	B B 2A		B A	B 2A		C B A	B B B		B B 2B		B B C
総括	A			A			B				B		

この外にも，観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。

# 実習記録用紙

年 組( ) 氏名

日付	実習内容 課題	気が付いたこと 及び 感想

情報B

ここでは、問題解決とコンピュータの活用にかかわる学習領域のうち「コンピュータによる情報処理の特徴」を取りあげ、指導と評価を行った事例について紹介する。

単元名 (1)問題解決とコンピュータの活用 イ．コンピュータによる情報処理の特徴 (4時間)

1 単元の目標

コンピュータを適切に活用する上で知っておかなければならない、コンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。

2 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることに関心を持ち、問題解決において適切にコンピュータを活用しようとする。	問題解決の手順を工夫するとともに、用いる手段を考える。	問題解決の手順を明確に記述して実行するとともに、問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることを確かめる。	問題解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることと、コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の特徴を理解している。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを用いた情報処理の長所と短所を考えようとする。</li> <li>・他の班の発表と関連付けながらワークシートの作成に取り組もうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを用いた情報処理と用いない情報処理とを関連付けて考察し、その違いを明らかにする。</li> <li>・実習結果を考察し、その結果をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを用いて文字情報を処理できる。</li> <li>・実習結果を発表するために必要な情報を選択し、発表用資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを用いた情報処理と用いない情報処理との違いに着目し、それぞれの長所と短所を理解している。</li> <li>・トレードオフの意味を理解している。</li> </ul>
学習活動における具体の評価規準	身近な情報とその処理を取りあげ、コンピュータを用いた情報処理の長所と短所について考えようとしている。各班の発表を比較しながら、ワークシートの作成に取り組もうとしている。	計算処理を例にとり、コンピュータを用いた場合と手計算した場合では、計算の速度、精度等に違いが表れることを考察し、それ気付いている。実習結果及びこれに関する考察し、その過程をワークシートにまとめている。	キーボード、イメージスキャナと文字認識ソフトウェア、音声認識ソフトウェアを使ってコンピュータに文字情報を入力できる。班で実習結果を資料にまとめ、発表することができる。	コンピュータを用いた情報処理と用いない情報処理とを対比させ、それぞれの長所や短所を理解している。問題解決の具体的な事例と関連付けて、トレードオフの意味を理解している。

### 3 指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準との関連				評価の方法
		ア	イ	ウ	エ	
1次 (1時限)	身のまわりの情報とさまざまな処理 ・コンピュータを用いることの長所と短所について学習する。 ・さまざまな計算処理の事例を通して、人間とコンピュータとの処理方法の違いを比較し、ワークシートにまとめる。					行動観察、ワークシート 行動観察、ワークシート
2次 (2・3時限)	コンピュータによる情報処理の長所・短所 ・文字情報を入力する方法をあげる。 ・文字情報を入力するための具体的な操作方法を学習する。 ・与えられた課題を実際に複数の入力方法で処理し、ファイルとして提出する。 ・いろいろな方法で文字情報をコンピュータに入力し、それぞれの長所、短所をワークシートに記録する。 ・実習結果とその考察結果をワークシートにまとめる。 ・各班の代表者が簡潔に実験結果を報告する。 ・各班のワークシートの内容を比較・考察し、その結果を加味してワークシートを完成させる。					ワークシート ワークシート 機器操作、行動観察 行動観察
3次 (4時限)	トレードオフの理解と単元のまとめ ・トレードオフについて学習し、その内容をワークシートにまとめる。 ・単元のまとめを発表する。					行動観察、プレゼンテーション ワークシート

(注)「指導と評価の計画」中の「評価規準との関連」のA～Eは、「2 単元の評価規準」の「評価の観点」の記号と、数字の番号は「学習活動における具体的評価規準」の番号と一致している。

### 4 観点別評価の進め方

学習活動における具体的評価規準に照らし、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される具体例と、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてを次にまとめた。

学習活動における具体的評価規準		評価	
学習活動		「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だて
1次 (1時限)	ア	適切な事例を自ら見だし、事例に関連付けながらコンピュータを用いた場合と用いない場合との処理の長所と短所を簡潔、明瞭にワークシートに記入している。	事例を例示し、この事例に基づき長所と短所をワークシートに整理させることによって、課題に取り組んでいこうとする態度を育てる。
	イ	計算の速度、精度に違いが端的に表れる事例を自ら見だし、この事例に基づき検討を加え、その結果を簡潔、明瞭にワークシートに記入している。	事例を示し、この事例から考え出せる特色をあげさせることによって、課題解決の手がかりを与える。

2次 (2・3時限)	ア	自分の発表と他の班の発表とを比較して、改善すべき点を積極的に見だし、改善点を簡潔、明瞭にワークシートにまとめている。	自分の発表と他の発表との違いを整理させ、その中から自分の発表をよくする項目をあげさせる。
	イ	実習の結果を様々な視点から分析し、分析結果を分かりやすくワークシートにまとめている。	実習の結果を分析する項目について考えさせ、結果考察の手がかりを与える。
	ウ	課題として与えられた文字情報の入力方法について十分に習熟し、それぞれの方法でコンピュータに文字情報を効率的に入力することができる。	机間指導によって、生徒に対してアドバイスや励ましを行う。
	エ	コンピュータを用いた情報処理と用いない情報処理の特徴を体験的な学習を通して的確に見だし、確実に理解している。	それぞれの情報処理の長所と短所を整理させ、課題解決の手がかりを与える。
3次 (4時限)	ウ	聞き手の理解を促すためにグラフや図表などを活用するなどして発表方法に工夫を凝らし、実習の結果や考察をまとめ、分かりやすく発表している。	グラフや図表の特徴や活用方法についてまとめさせたり、他のグループの発表を聞いて分かりにくかった点などについてまとめさせるなどして、作業が進まない問題点を明確化する。
	エ	トレードオフの意味と特徴について、授業で習った以外の身近な問題解決事例を取りあげ、関連付けて理解している。	授業で取りあげた問題解決事例のポイントを整理させ、理解を促す。

## 5 観点別評価の総括

各單元ごとに学習活動における評価規準について「十分満足できると判断される」状況（A）、「おおむね満足できると判断される」状況（B）、「努力を要すると判断される」状況（C）の3段階で評価を行い、その結果に基づき、單元が終了した段階で観点別に評価の総括を行った。

本事例は、導入段階の学習内容なので「ア 関心・意欲・態度」の評価に当たっては、行動を観察・確認することによってよりよく評価できると考えた。そこで、ワークシートのみを用いて評価を行った評価結果よりも、行動観察を加えて得られた評価結果により大きく重み付けを行った。具体的には、次のような重み付けを行った。

ア : ア = 6 : 4

学習活動における具体的評価規準の評価の結果に対して、あらかじめ次のように評価の総括について考え方を定めた。なお、同一の観点にかかわる具体的評価規準の評価結果に、Aが1個とCが1個ある場合にはBが2個あるものと見なして評価の総括を行った。

### 【評価の総括の考え方】

観点別評価の結果がAとBのみでAが半数以上の場合はAとし、その他はBとする  
 観点別評価の結果がBとCのみでBが半数以上の場合はBとし、その他はCとする  
 観点別評価の結果がAのみの場合はAとする  
 観点別評価の結果がBのみの場合はBとする  
 観点別評価の結果がCのみの場合はCとする

ある生徒（M）の評価結果が、ア がB、ア がAであったとすると、重み付けに応じて各評価規準の評価を換算するとア が6B、ア が4Aとなる。その結果、Aが4個、Bが6個となる。なお、他の三つの観点については特に重み付けはしなかった（次表参照）。

評価の総括の考え方に従い、生徒（M）の「ア 関心・意欲・態度」の観点の評価はBとなる。

他の観点についても同様に評価した結果、本事例における生徒（M）の観点別評価の総括は次の表の通りとなる。

〔観点別評価の総括例〕

生徒 M	関心・意欲・態度			思考・判断			技能・表現			知識・理解		
	: = 6 : 4			: = 5 : 5			: = 5 : 5			: = 5 : 5		
	評価規準	評価	換算	評価規準	評価	換算	評価規準	評価	換算	評価規準	評価	換算
		B A	6 B 4 A		A B	5 A 5 B		A A	5 A 5 A		B B	5 B 5 B
総括	B			A			A			B		

この外にも、観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

情報C

ここでは、情報のデジタル化にかかわる学習領域のうち「情報機器を活用した表現方法」を取りあげ、指導と評価の工夫を行った事例について紹介する。

単元名 (1)情報のデジタル化 ウ・情報機器を活用した表現方法(11時間)

1 単元の目標

- (1) いろいろな情報機器による表現方法について理解する。
- (2) ソフトウェアを活用して自分の意図を効果的に表現する技能を身に付ける。
- (3) 表現された情報を評価する観点を理解し、表現を適正に評価する判断力を身に付ける。
- (4) 個人情報取り扱いや著作権などについて関心をもたせ、制作物をつくる上でこれらのことに配慮使用とする態度を身に付ける。

2 単元の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	情報機器を活用して多様な形態の情報を統合しようとするとともに、分かりやすく表現しようとする。	情報機器の種類と特性を踏まえて目的に応じた適切な情報機器を選択するとともに、情報を分かりやすく表現するための工夫をする。	身のまわりの情報機器を活用して多様な形態の情報をデジタル化するとともに、それらの情報を統合して分かりやすく表現する。	情報のデジタル化の仕組み、情報機器の種類と特性、デジタル化により多様な情報が統合化できることを理解している。
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報機器を活用して、伝えたい内容を分かりやすく表現しようとする。</li> <li>・ 自己や他者の制作物を適正に評価し、その結果に基づき自己の制作物を改善しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝えたい内容を分かりやすくするために表現を工夫する。</li> <li>・ 制作物を自己評価や相互評価し、改善を考える。</li> <li>・ 個人情報や著作権などの取り扱いについて、適切に判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な形態の情報を統合することにより、自分の意図した内容を表現する。</li> <li>・ 制作の計画を立て、それに基づいて活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報機器やソフトウェアによる表現方法の特徴について理解している。</li> <li>・ 制作物を評価し改善するための基本的な観点と方法を理解している。</li> </ul>
学習活動における具体的評価規準	ポスター制作に必要な学校の特色を見付けようとしている。互いの意見を尊重しながら、よりよいポスターを作ろうとしている。他者のポスターを評価し、改善しようとしている。	伝えたい内容を分かりやすく表現するために、集めた情報を取捨選択している。個人情報や著作権を取り扱う際、適切に判断している。ポスター作品を同じ項目で評価している。	立案した制作計画に沿って活動や作業分担を決め、その内容をまとめようとしている。写真、イラスト、文字やレイヤー機能を使うことにより、自分の意図した内容を表現している。作品発表に向けて準備を行い作品を発表している。	メインビジュアル、キャッチコピー、ターゲットなどを見付け出し、ポスターの特徴について理解している。デジタルカメラ、スキャナー、画像編集ソフトウェアによる表現方法の特徴について理解している。ポスターデザインの基本を理解しているとともに、評価し、改善するための基本的な方法を理解している。

### 3 指導と評価の計画

時 限	学習活動	評価規準との 関連				評価の方法
		ア	イ	ウ	エ	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターとは何かを考え、実際のチラシ・パンフレット・ポスターからその違いや特徴について考える。</li> <li>掲示されたポスターについての情報（広告主、予想される掲示場所、ターゲット、メインビジュアル、キャッチコピーなど）を見付け、工夫している点や自分の気に入っているところをワークシート1にまとめる。</li> </ul>					ワークシート1（ポスターを分析する）
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターを制作するに当たって、必要となる要件等を考える。</li> <li>必要要件（広告主、予想される掲示場所、ターゲットなど）、ポスターで伝えたいこと、素材、構成などポスター作りに必要な情報をワークシート2に文書処理ソフトを活用してまとめる。</li> </ul>					ワークシート2（ポスター企画書） ワークシート2（ポスター企画書）
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>2人1組でグループをつくり、ワークシート2に基づいてポスターのイメージを十分に話し合う。</li> </ul>					行動観察
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで相談したポスターのイメージを、ワークシート3に具体的に表現する。</li> <li>具現化するための下書き絵を制作する。</li> </ul>					ワークシート3（下書きの絵）
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像編集ソフトウェアの使い方を理解する。</li> <li>学校の情報収集・必要な写真撮影を行う。</li> </ul>					行動観察 行動観察
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターに利用する写真を撮影する。</li> <li>校内サーバに保存された他人の写真を利用する場合は、校内サーバの掲示板で申し出をする。</li> </ul>					行動観察 機器操作、掲示板への書き込み
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスター制作のヒントになるように、色に関する講義を受ける。</li> </ul>					行動観察 行動観察
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスター制作のヒントになるように、レイアウトデザインに関する講義を受ける。</li> <li>ポスターを白黒で印刷し、レイアウトを再考する。</li> </ul>					行動観察、白黒のポスター 行動観察
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成したポスターをPDF形式で保存するとともに、カラーで印刷する。</li> <li>ワークシート4（伝えたいこと、工夫した点、感想など）を書き、決められた時間で発表できるようにシナリオ原稿を作成する。</li> </ul>					ワークシート4（発表準備のワークシート）、シナリオ原稿、ペーパーテスト
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表者は、完成したポスターをプロジェクターに投影しながら発表する。その他の人は、ワークシート5に発表を聞き、よかった点や改善すべき点を1行程度にまとめて記入する。</li> <li>発表者に対してコメントする。</li> <li>Webページに優秀作品を投票する。</li> </ul>					行動観察 ワークシート5（相互評価ワークシート） プレゼンテーション
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互評価を行う。</li> <li>ワークシート5の内容を検討し、ポスターを改善するかどうか判断する。</li> </ul>					ワークシート5（相互評価ワークシート）

#### 4 観点別評価の進め方

学習活動における具体的評価規準に照らし、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例と、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だてを次にまとめた。

学習活動における 具体的評価規準		評価	
学習活動		「十分満足できると判断される」状況（A）と評価される具体例	「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だて
1時限	エ	メインビジュアル、キャッチコピー、ターゲットなどを自主的に見付けだし、それぞれの特徴を明確化して、ポスターの特徴を理解している。	メインビジュアル、キャッチコピー、ターゲットのポイントについて要点を改めて整理させ、課題解決の方法を明らかにする。
2時限	ア	ポスターを制作するために必要な学校の特色を、他の生徒とは異なる視点から見付け出している。	学校の特色をあげさせ、そのうちポスターの制作に役立つ特徴を見付け出させる。
	イ	伝えたい内容を分かりやすく表現するためにはどのような要素が必要かを明確に理解し、それに基づいて集めた情報を取捨選択し、ワークシート2（ポスター企画書）に分かりやすくまとめている。	分かりやすいプレゼンテーションの基本的な事項を整理させる。
3時限	ア	互いの意見を生かして、明確なメッセージを表現しているポスターのイメージをまとめている。	グループの話し合いの過程で出た意見をまとめさせるとともに、明確なメッセージを表現しているポスターとはどんなものかを考えさせ、課題追究の意欲を育てる。
4時限	ア	明確なメッセージを表現しているポスターをワークシート3（下書きの絵）に具体的に表現している。	机間指導によって、生徒に対してアドバイスや励ましを行う。
5時限	ウ	写真、イラスト、文字の情報やレイヤー機能の特色を十分に理解し、それらを駆使して自分の意図した内容を表現している。	写真、イラスト、文字の情報やレイヤー機能の特色のポイントを改めて整理させるとともに、ポスターで表現しようとしている内容をまとめさせる。
	エ	デジタルカメラやスキャナー、画像編集ソフトウェアによる表現方法の特徴について体験を通して十分に理解している。	デジタルカメラやスキャナー、画像編集ソフトウェアによる表現方法のポイントを再度まとめさせ、学習への意欲を育む。
6時限	イ	個人情報や著作権を取り扱う際の注意事項等を自主的にまとめ、これに基づいて適切に判断している。	個人情報や著作権を取り扱う際の注意点を整理させ、課題解決への意欲を育てる。
	ウ	写真、イラスト、文字の情報やレイヤー機能の特色を十分に理解し、それらを駆使して自分の意図した内容を表現している。	写真、イラスト、文字の情報やレイヤー機能の特色のポイントを改めて整理させるとともに、ポスターで表現しようとしている内容をまとめさせる。
7時限	ウ	自主的に制作計画を立案し、それに基づいた活動や作業分担を決め、その内容を分かりやすくまとめている。	ポスターの制作過程を改めてまとめさせ、必要となる作業をあげさせる。
	エ	デジタルカメラやスキャナー、画像編	デジタルカメラやスキャナー、画像編

		集 ソフトウェアによる表現方法の特徴について体験を通して十分に理解している。	集ソフトウェアによる表現方法のポイントを再度まとめさせ、学習への意欲を育む。
8 時限	ウ	写真，イラスト，文字の情報やレイヤー機能の特色を十分に理解し，それらを駆使して自分の意図した内容を表現している。	写真，イラスト，文字の情報やレイヤー機能の特色のポイントを改めて整理させるとともに，ポスターで表現しようとしている内容をまとめさせる。
	エ	ポスターデザインの基本を十分に理解し，これに基づいてポスターを評価し，改善するための方法を理解している。	ポスターデザインの基本を改めて整理させる。
9 時限	ウ	作品発表の準備としてワークシート 4（発表準備ワークシート）やシナリオ原稿を簡潔・明瞭に作成し，これに基づいて分かりやすい作品発表をしている。	発表準備のポイントをまとめさせるとともに，これに基づいてシナリオを見直させる。
10 時限	ア	他者のポスターの良い点と悪い点を複数指摘し，これに関連付けて自己のポスターを吟味し，よりよいポスターに改善している。	ポスターの良い点と悪い点をまとめさせる。
	イ	自主的に設定した評価項目に基づいて，他者のポスターを公平に評価している。	ポスターを評価する際のポイントを整理させる。
	ウ	作品発表の準備としてワークシート 4（発表準備ワークシート）やシナリオ原稿を簡潔・明瞭に作成し，これに基づいて分かりやすい作品発表をしている。	発表準備のポイントをまとめさせるとともに，これに基づいてシナリオを見直させる。
11 時限	イ	自主的に設定した評価項目に基づいて，他者のポスターを公平に評価している。	ポスターを評価する際のポイントを整理させる。

## 5 観点別評価の総括

本事例では，各單元ごとに学習活動における評価規準について「十分満足できると判断される」状況（A），「おおむね満足できると判断される」状況（B），「努力を要すると判断される」状況（C）の3段階で評価を行い，その結果に基づき，單元が終了した段階で観点別に評価の総括を行った。

学習活動における具体的評価規準の評価の結果に対して，あらかじめ次のように評価の総括について考え方を定めた。なお，同一の観点にかかわる具体的評価規準の評価結果に，Aが1個とCが1個ある場合にはBが2個あるものと見なして評価の総括を行った。

### 【評価の総括の考え方】

観点別評価の結果がAとBのみでAが半数以上の場合にはAとし，その他はBとする  
 観点別評価の結果がBとCのみでBが半数以上の場合にはBとし，その他はCとする  
 観点別評価の結果がAのみの場合にはAとする  
 観点別評価の結果がBのみの場合にはBとする  
 観点別評価の結果がCのみの場合にはCとする

たとえば、生徒（S）の学習活動における具体の評価規準に沿った評価結果が次の表のようだったとする。評価の総括の考え方に基づき総括した結果、本事例における生徒（S）の観点別評価の総括は次の通りとなる。

〔観点別評価の総括例〕

生徒 S	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
	評価規準	評価	評価規準	評価	評価規準	評価	評価規準	評価
		A B A		B B B		A A B		A B B
総括	A		B		A		B	

この外にも、観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校においては工夫することが望まれる。

## ポスターを分析する

\_\_\_\_年 \_\_\_\_組(\_\_\_\_) 氏名

---

ポスターとはどのようなものか。詳しく説明しなさい。(箇条書きでまとめなさい)

ポスター批評(掲示されたポスターをひとつ選んで批評を書きなさい)

## ポスター企画書

年 組( ) 氏名

---

必要要件

このポスターで一番伝えたいこと（キャッチコピーなどもあれば）を書く

ポスター素材（具体的な写真，学校に関する資料，イラストなど）を書く

どのような構成にするか，そのアイデア（色，写真，レイアウトなど）を書く

## 発表準備ワークシート

年 組( ) 氏名

このポスターで本校の何を伝えたかったのか。

伝えるために工夫した点を三つ以上書きなさい。

(たとえば、キャッチコピー・メインビジュアル・文字や写真の配置・デザインレイアウト・色彩など具体的に自分たちで工夫したことを書くこと。)

ポスター制作時に、苦労した点を三つ以上書きなさい。

(写真の撮影、先輩や先生からの情報収集、あるいは上記で工夫した時の様子など具体的に自分たちが苦労したことを書くこと。)

ポスター制作を通して、個人の感想を書きなさい。

名前( )

名前( )